

令和8年度 思いを伝える 読書感想文 全員参加



～読書感想文を書く“ポイント”と“ヒント”～

読むこと、書くこと、自分を知ること。
第72回 青少年読書感想文全国コンクール
主催：公益財団法人 全国読書感想文コンクール実行委員会 協賛：文部科学省 文化庁 読書・ライティング教育推進委員会

①「よい感想文を読む」

最重要ポイント その1

②「よい本を読む」

③「読み手に伝えたいことは何か」

～過去の入賞作品はコチラ

(1) 読書感想文を書く手順 佐賀県上峰町立上峰中学校 吉岡 晃子 先生 より

手順1 学校図書館で本を選ぶ

手順2 本を読む

手順3 項目ごとに分けて書く 次の★をそれぞれ別の原稿用紙に書いてみよう。

★ 初めて知ったこと、意外だったことを書く。

★ 自分の体験と本の内容を結びつけたり、比べたりして書く。

★ その本を読んで気付いた自分の気持ちや気持ちの変化を書く。

★ その本の主題を考えて書く。

手順4 文の構成を決める 手順3で書いた原稿用紙を、順番を変えながら並べてみる。書き出しにはどれをもってきてもよいが、「主題」を最初に置くと勢いが出ることが多い。また、最初に「主題」を置くと、最後にもう一度繰り返して強調することもできる。

(2) 感想文は「心の成長の記録」です！ 兵庫県豊岡市立神美小学校 校長 齋藤 恭子 先生 より

- 1 まず、紙と鉛筆を用意して、本の表紙をじっくり見ましょう。そして、感じたこと、発見したことをメモします。つぎに裏表紙も見ましょう。ここでも何か感じたらメモします。
- 2 それから本を開きましょう。もう一度ゆっくり読み返しながら、心に浮かんだことをどんどん用紙に書きます。「へえ、そうなんだ」「どうして？」「困ったね」「自分ならどうする」
- 3 書き上げたメモを分類（疑問、感動、発見、想像、反省、期待…）し、書きたいことの中心（この感想文のテーマとなる）を決めます。
- 4 テーマを核にして、文章の構成を考えます。
- 5 下書きを音読しながら推敲（もっと適切な言葉・表現はないか、文末表現はどうか、接続詞は適切か…）し、前書きと後書きを考えます。
- 6 募集規定（字数、書き方など）に合わせて点検し、清書します。

(3) 読書感想文 楽しんで攻略 宮川俊彦氏 朝日新聞 平成24年7月28日「子供の本棚」より

感想文に決まりはない。ただ、文章にはいろいろな工夫ができる。ぼくは、30年くらい前から、「な・た・も・だ」を使ってみようと言ってきた。「なぜなら」「たとえば」「もしも」「だから」の順に文章を書いて、最後に自分の意見をはっきりと記す。これは、あくまでも書き始めるためのヒントである。たとえば、

- ・物語の主人公を、自分に置きかえてみる。自分を客観的に捉えると、表現方法が豊かになる。
- ・感想文に適している本は、繰り返して読み返した本だ。
- ・読んで面白くなくても、「何だこれ」と疑問が浮かんだ本の方が書きやすいことだってある。
- ・親は指導ではなく鑑賞者になろう。私はこう思ったと、子どもが分析するのを手伝ってほしい。

(4) 書き出しや題名の工夫 本校 学校図書館スーパーバイザー 藤田 利江 氏 より

感想文は、本の紹介文ではありません

あらすじは無くてもOK

最重要ポイント その2

感じたこと、考えたこと、思ったことを書く

書き出しを工夫すると読み手を引きつけます。

題名が感動を伝えます。効果的な題名を！！

【書き出し】

- ア) その本を選んだ理由から書く。
- イ) 身近な人の会話から書く。
- ウ) 一番心に残ったことから書く。

【題名】

- ア) 一番言いたいことを短くまとめる。
- イ) 心に残った言葉で表す。
- ウ) 言いたいことのキーワードを見つける。

夏だ！ 読書だ！



読書感想文の 書き方のコツ



読書感想文を書くための“ポイント（コツ）”をご紹介します。前のページの4人の先生のコメントをよく読むと、実は、ほとんど共通しています。以下に整理してみました。

何よりも ①「（受賞作等）よい感想文を読む」②「よい本を読む」③「読み手に伝えたいことは何か」ことを最重要事項としたうえで、以下の手順で書いてみるとよいと思います。

手順1 本を読む

- ・ 感想文に適している本は、繰り返して読み返した本だ。夏休みは、いろいろな本を読んでみよう！
- ・ 逆に、読んで面白くなくても、「何だこれ？」と疑問が浮かんだ本の方が書きやすいことだってある。
- 調べる学習コンクールのために読んだ本で、感想文を書くこともできる。

手順2 項目ごとに分けて書く

- ・ 感想文を書く本が決まったら、まず本の表紙をじっくり見て感じたこと、発見したことをメモします。次に裏表紙も見ましょう。ここでも何か感じたらメモします。
- ・ そして、本文をもう一度ゆっくり読み返しながら、心に浮かんだことをどんどん用紙に何枚も書きます。

知ったこと

初めて知ったこと、意外だったことを書く。
「なぜだろう？」「どうして？」「へえ、そうなんだ」 疑問や発見

自分の体験

自分の体験と本の内容を結びつけたり、比べたりして書く。
「もしも」「だから」「たとえば」

自分の気持ち

その本を読んで気付いた自分の気持ちや、自分の気持ちの変化を書く。
「私は…」「なぜなら…」 感動や想像

本の主題

その本の主題を考えて書く。物語の主人公を、自分に置きかえてみる。
「この本のテーマは…」 「私なら…」

手順3 文の構成を決める

手順2で書いた用紙を、順番を変えながら、読み手に効果的に伝わるように、並べてみる。

→ テーマ（自分の主題）を核にして、文章の構成を考えます。書き出しを工夫すると読み手を引きつけます。

最重要ポイント

- ア) その本を選んだ理由から書く。
- イ) 身近な人の会話から書く。
- ウ) 一番心に残ったことから書く。 など

書き出し

「主題」を最初に置くと勢いが出る！ また、最初に「主題」を置くと最後に繰り返して強調することができる。

題名

感想文の題名が、感動を伝えます。
自分の主張（感想）が、読み手に効果的に伝わる題名を考えます！！

- ア) 一番言いたいことを短くまとめる。
- イ) 心に残った言葉で表す。
- ウ) 言いたいことのキーワードを見つける。

手順4 推敲・清書する

- ・ 下書きを音読しながら推敲（もっと適切な言葉・表現はないか、文末表現はどうか、接続詞は適切か…）し、前書きと後書きを考えます。
- ・ 募集規定（字数、書き方など）に合わせて点検し、清書します。

あらすじは不要！

感想文は、本のPR文や紹介文ではありません。詳しくあらすじを書いたり、長々と引用したりすると、自分が本当に言いたいこと（感想）が伝わりません。